



津波の恐れがある時には海岸からできるだけ遠く、  
できるだけ高い場所へ避難しましょう。

名護市ハザードマップ(伊差川区)

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の  
2万5千分の1地形図を使用(承認番号 平24情使第244-30362号)

津波避難場所	海拔 m
① 伊差川公民館	20m
② 伊差川運動公園	18m
③ 我部祖河之御嶽	31m
④ 山田公民館	16m



0 500m

- 凡例
- 津波避難場所
  - 急傾斜地崩壊危険箇所
  - 土砂災害警戒区域
  - 国道
  - 県道
  - 信号機
  - 大字界
  - 公共機関
  - 交番・駐在所
  - 教育
  - お買物
  - 工場
  - 大きな公園
  - GS
  - 金融機関

# ハザードマップの使い方

## ① ハザードマップの見方

地図内の赤網点  で表記されているエリアは急傾斜地崩壊危険箇所、 で表記されているエリアは土砂災害警戒区域を示しています。現在お住まいの周辺で予測される災害状況を踏まえ、安全な避難場所までのルートのご利用ください。

この防災マップは、現行の調査要領によって収集された情報を反映しております。地図で示す各警戒区域外でも、土砂崩れや浸水などの災害が起こる事がありますので住民一人一人の心がけが重要です。

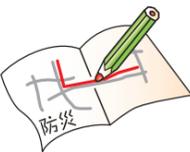
## ② 避難場所を確認しましょう

それぞれ災害の種別を考慮し、悪天候時や、夜間の視界が悪いことを想定して家族全員で避難場所を確認してください。



## ③ 避難ルートを地図に記入しましょう

災害の種別による避難場所までの安全なルートを、背面の地図に記入しておきましょう。家族全員の目の届く所に貼り出しておくことにより、いつでも確認ができます。



## ④ 家族で情報を共有しましょう

中央下にある防災メモに、家族の名前、生年月日、血液型、緊急連絡先番号の他、離ればなれになった場合の対策として、家族の集会所を記入して情報を共有しましょう。



## ⑤ 避難時の持ち出し品をチェックしましょう

避難時の持ち物チェックリストをもとに事前に準備しておきましょう。緊急時にすぐに持ち出せるように玄関付近など、保管場所も工夫してみましょう。

避難時持ち出し品		
<input type="checkbox"/> 非常用飲料水	<input type="checkbox"/> 救急用品 (包帯・三角巾・消毒液等)	<input type="checkbox"/> 小さい子供がいる家庭は <input type="checkbox"/> ミルク、ほ乳びん
<input type="checkbox"/> 食料 (カップ麺・缶詰・乾パン等)	<input type="checkbox"/> 筆記用具 (鉛筆・ノート等)	<input type="checkbox"/> 小さい子供がいる家庭は <input type="checkbox"/> おむつ、ウェットティッシュ
<input type="checkbox"/> 貴重品 (現金・通帳・印鑑等)	<input type="checkbox"/> 衣類 (Tシャツ・ジャンパー・下着等)	<input type="checkbox"/> 小さい子供がいる家庭は <input type="checkbox"/> 肌着などの衣類
<input type="checkbox"/> 懐中電灯 (予備電池)	<input type="checkbox"/> マッチやライター ろうそくなど	<input type="checkbox"/> その他 1
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ (予備電池)	<input type="checkbox"/> 軍手(厚手の手袋) ヘルメット	<input type="checkbox"/> その他 2

# 台風について

## ① 台風が接近したら、まず家の補強

補強する場所は、雨戸、窓ガラス、塀、物干し、アンテナ、看板など。接近までに時間がある場合は、防水シートや角材等も用意しましょう。

また、植木鉢は強風で倒されたり、飛ばされる恐れがあるので1ヶ所にまとめておくと安全です。



## ② 停電や断水に備え、備品のチェック

飲料水、食料、簡単な医療品、下着、懐中電灯、ライター、ラジオは揃えてリュックに入れておきましょう。



非常備蓄品		
<input type="checkbox"/> 非常用飲料水	<input type="checkbox"/> 下着 (2~3着分)	<input type="checkbox"/> マッチやライター ろうそくなど
<input type="checkbox"/> 食料 (カップ麺・缶詰・米など 4~5食分)	<input type="checkbox"/> 懐中電灯 (予備電池)	<input type="checkbox"/> ラジオ (予備電池)
<input type="checkbox"/> 医療品	<input type="checkbox"/> 水の確保	1人1日あたり3ℓの水が必要といわれています。「洗う」「消す」「トイレに流す」などいろいろなか所で使う必要がありますので、お風呂の水はいつもはっておくようにしましょう。

\*1人最低3日分は用意しておきましょう。 \*非常時備蓄品は年に1度はチェックして、新しい物に交換しましょう。

## ③ 気象情報に注意しましょう

台風等の気象情報は、テレビやラジオ、インターネットなどで最新の情報を収集し、町や防災機関の広報等にも注意して聞いておきましょう。

沖縄気象台  
<http://www.jma-net.go.jp/okinawa/>



# 大雨について

## ① 急傾斜地・がけ近くは土砂災害に注意

大雨や集中豪雨で発生する土砂災害。

1. 小石がパラパラ落ちる。
  2. 地面にひび割れができる。
  3. 斜面から濁った水が流れ出ている。
- 等を発見したら注意しましょう。また、避難勧告が出たらすぐに避難してください。



## ② 冠水した道路の運転に注意

冠水路は迂回をし侵入しないようにしましょう。冠水した道路の注意

1. 水没したらドアが開くうちに避難する。
2. ゆっくり走っても走りきれずとは限らない。
3. 速度を上げて走ると巻き上げる水量が増え、エンジンが止まりやすくなる。
4. エンジンに水が入れば止まってしまう。
5. 冠水路は水深も水の中の様子もわからない。



# 名護市

## ハザードマップ 2013年3月

## 避難時の注意

### いざ避難となった時に・・・

- ・できるだけ軽装で、はきなれた靴を着用しましょう。裸足や長靴は禁物です。
- ・隣近所で助け合いながら避難しましょう。
- ・一緒に避難する人とはぐれないように、特に子供から目を離さないようにしましょう。
- ・なるべく乗り物は使わず、徒歩で避難しましょう。

### さらに大雨・台風の時は

- ・マンホールや側溝に注意し、杖などで水面下の安全を確認しながら歩きましょう。
- ・強風で危険な物が飛んでくる恐れがあるので、ヘルメットや防災ずきん、厚手の帽子などをかぶるようにしましょう。

## ご存知ですか？ 伝言ダイヤル 171

地震など大災害発生時は、安否確認、見舞、問合せなどの電話が急激に増加し、電話がつながり難い状況(電話ふくそう)が発生当日~数日間続きます。伝言ダイヤルは、安否確認の伝言を登録できるサービスです。局番無しの171をダイヤル後、ガイダンスに従ってご利用ください。事前の登録は不要なので、災害時は誰でも利用する事ができます。

## 防災メモ

氏名	生年月日	血液型	緊急連絡先番号

家族の集会所：

# 地震について

## ① 落ち着いて身の安全を確保する

テーブルや机の下に身を隠すなどして、まずは自分の身の安全を確保してください。



## ② あわてず冷静に出火を防ぐ

使用中の火を素早く消しガスの元栓を閉めて下さい。もしも火災がおきたら隣近所に協力を呼びかけ、落ち着いて消火にあたきましょう。



## ③ 窓や戸を空けて出口を確保する

地震の影響による建物のゆがみで戸や窓が開かなくなることがあるので慌てず出口の確保を行いましょう。



## ④ 停電後の通電火災を防ぐ

避難で家を空ける時は電気プラグを全て抜いておき、通電した際の漏電や倒れた電気ストーブなどによる出火を予防しましょう。



## ⑤ 慌てて外に飛び出さない

落下物や建物の倒壊など、地震直後の外には危険がいっぱいです。周囲の状況をよく確かめ、落ち着いて行動しましょう。



## ⑥ 避難は徒歩で荷物は最小限に

非常用品はリュック等に入れて一つにまとめておき、避難する際にはエレベーターや自動車は使用しないようにしましょう。



## ⑦ 地震による土砂災害、津波に注意

地震によって、がけ崩れ、土石流、津波が発生するおそれがあります。危険のある地域では早めに避難しましょう。



沿岸地域の方は特に、地震直後の津波情報にも耳を傾けてください。

# 津波について

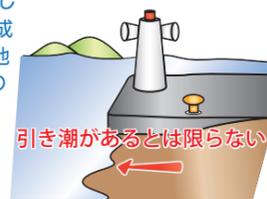
## ① 地震の大きさと自己判断しない

1896年の明治三陸地震津波では、沿岸での最大震度3程度と小さく避難した人が少なかったため、被害が拡大しています。この地震の津波遡上高が最大で38.2mを記録しています。小さい揺れでも津波が押し寄せることがあります。



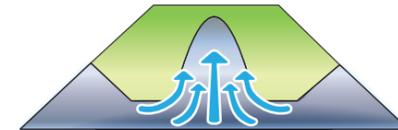
## ② 津波の前には必ず潮が引くとは限らない

地震の発生の仕方によっては、いきなり大きな波が押し寄せることもあります。平成15年(2003年)十勝沖地震による津波や、2004年のスマトラ沖地震の際にスリランカやインドの沿岸に押し寄せた津波では、直前に潮が引くことなく大きな波が押し寄せました。



## ③ 海岸の地形で津波の高さは変化します

岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形の場所では、波が集中するので、特に注意が必要です。津波は反射を繰り返すことで何回も押し寄せたり、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。後で来襲する津波のほうが高くなることもあります。



## ④ 津波のスピードは思うよりも早い

オリンピックの短距離走選手なみの速さで陸上に押し寄せるので、普通の人々が走って逃げ切れるものではありません。津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合わないのです。速やかに避難しましょう。



## ⑤ 日本で一番大きな津波

2011年3月11日に発生した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」による津波では、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」による調査により、岩手県大船渡市の綾里湾で局所的に39.7mの遡上高(海岸から内陸へ津波がかけ上がった高さ)が観測されました。記録に残っている中では、1896年の明治三陸津波(遡上高で約38.2mと推定：同じく岩手県大船渡市)を上回り、これまでに日本で記録された最大の津波となりました。

## 名護市役所

TEL:(0980)-53-1212 (内線 213)  
FAX:(0980)-53-6210



モバイルサイト QR

eメールアドレス soumu@city.nago.okinawa.jp  
ホームページ <http://www.city.nago.okinawa.jp/>  
モバイルページ <http://mobile.city.nago.okinawa.jp/>